

日中対照言語学会第38回大会（2017年度冬季大会）のご案内

記

日時：2017年12月24日（日）9：20～17：35分まで

会場：大阪産業大学梅田サテライト（JR大阪駅南口下車、阪神百貨店右の通りを直進、徒歩約5分、大阪駅前第三ビル19階。大阪市北区梅田1-1-3。電話06-6442-5522）

参加費：1,000円（会員、非会員共通）

プログラム

- 受付（8：50～） 総合司会 下地 早智子（神戸市外国語大学）
- 大会開催校挨拶** 張 黎（大阪産業大学） 9：20～9：25
- 開会の辞** 于 康（関西学院大学） 9：25～9：30
- 研究発表1. 日本語母語話者による「したところ」の使用実態に関するコーパス調査 9：30～10：00
孟 慧（専修大学大学院）
- 研究発表2. 条件文における主節化の日中対照研究—日本語の「たら」と中国語の“要是”を例に—
桑 忠林（名古屋大学大学院） 10：00～10：30
以上司会 彭 飛（京都外国語大学）
- 休憩**（10分間 10：30～10：40）
- 研究発表3. “会”における意味用法の拡張 10：40～11：10
張 浩然（京都外国語大学大学院）
- 研究発表4. 「(の)ではないか」の中国語訳についての考察—中日対訳コーパスを利用して—
凌 飛（専修大学大学院） 11：10～11：40
- 研究発表5. 日本語と中国語におけるマイナス評価構文に関する一考察 11：40～12：10
肖海娜（神戸市外国語大学大学院） 以上司会 加藤 晴子（東京外国語大学）
- 昼休み**（60分間 ビルの階下に食堂街あり） 12：10～13：10
- 講演** 从语言类型的角度看汉语句法结构的生成理据 13：10～14：10
任 鷹（神戸市外国語大学） 以上司会 張 黎（大阪産業大学）
- 研究発表6. 人称代名詞が後置される場合の態度表出機能について—中国語との対照を通して—
汪 聞君（大阪大学大学院） 14：10～14：40
- 研究発表7. サ変動詞教育における漢字の習得について—一字語素を中心に— 14：40～15：10
劉 赫洋（関西大学大学院） 以上司会 安本 真弓（跡見学園女子大学）
- 休憩**（10分間：15：10～15：20）
- 研究発表8. 移動事象から見た日中移動動詞の対立 15：20～15：50
張 岩（神戸外国語大学大学院）
- 研究発表9. 実質視点と話題視点 15：50～16：20
高橋 弥守彦（大東文化大学名誉教授） 以上司会 余 維（関西外国語大学）
- 休憩**（10分間：16：20～16：30）
- 研究発表10. 現代蒙古語中の汉语混合使用与对蒙古族学生的第二语言汉语教学 16：30～17：00
来 小子（関西大学大学院）
- 研究発表11. 明治時期中国語教材の動詞の捉え方—『動字分類大全』と『支那語動詞形容詞用法』との比較— 17：00～17：30
楊 昕（関西大学大学院） 以上司会 王 学群（東洋大学）
- 閉会の辞** 加藤 晴子（東京外国語大学） 17：30
- ※昼食の間、拡大常務理事会を開催予定。
- ※当日入会申し込み、学会費の納入も受け付けます。（年会費：社会人4,000円、院生2,000円）

2017 年度冬季大会

講演及び研究発表 テーマ・発表者と発表要旨

講演テーマ：从语言类型的角度看汉语句法结构的生成理据

講演者：任 鷹（神戸市外国語大学）

講演要旨：

语言构造方式是与语言类型相关联着的，对此，已有学者从不同的角度加以阐释。汉语作为一种以“话题—说明”为结构框架的语用型语言，语用层面的因素应为决定其句法结构的总体格局的主要动因，而且是对其句法结构的生成具有驱动作用的动因，结构成分的句法表现即其能否在语言结构中出现及其所能占据的句法位置，就理应取决于其信息价值和信息特征，而不是直接取决于其题元及论元角色。对汉语语法研究有着深刻影响的“论元结构观”无疑是以动词和名词存在一致与支配关系、动词对其配项具有格位指派能力为出发点的，这样的研究对汉语的适用性究竟如何，是需要我们思考的问题。从语言事实的角度来看，汉语确有很多有悖“论元结构观”，或者说至少难以以“论元结构观”加以解释的句法现象。其中，动宾结构的多义性及动结式的“论元”实现的复杂性，可以说是备受汉语学界关注的现象，同时这些现象也正是汉语语言类型特征的映现，因而如从语言类型的角度重新审视与之相关的一些问题，可能会对汉语句法结构的生成理据有更客观的认识。

1. テーマ：「日本語母語話者による「したところ」の使用実態に関するコーパス調査」

孟 慧（専修大学大学院）

要旨：

下記の例文のような「したところ」は、小池他(2002)では「偶然確定条件」を表す形式とされている。日本語記述文法研究会(2008)では「したところ」の用法は事実条件文に近いとされ、「たら」と「と」でほぼ同じ意味を表すことができるとされている。

窓を{開けたら/開けると/開けたところ}、富士山が見えた。

筆者は過去の研究で YNU 書き言葉コーパスを使って日本語学習者の事実条件文の使用状況を調査した。その事実条件文についての研究の一環として「したところ」の用法も含めて調査を行った。調査した結果、日本語母語話者の使用と対比すると、中国語母語話者による「したところ」の使用上には問題点があることがわかった。中国語母語話者は「したところ」をあまり使っていない。「したところ」を使うべきところを「たら」で表現する。また不自然に使われることがある。このような調査結果から、中国語母語話者の日本語学習者にとって、どのような場合に「したところ」を使うべきかは分かりにくいということが推測される。その理由を考えると、このような過去に1回の事態が成立したことを意味する場合に用いられる条件文は中国語では「条件文」とされていない。このように、日本語と中国語の文法における「条件文」の食い違いが習得しにくくなる原因の1つである。また、教える際の説明不足も大きな原因と考えられるだろう。

本研究は国立国語研究所の現代日本語書き言葉均衡コーパスの検索ツール中納言と日本語話し言葉コーパスを使用して日本語母語話者による「したところ」の使用実態を考察する。従来の研究で言及されていない用法の分類案を求め、使用場面の特徴を分析する。

2. 条件文における主節化の日中対照研究—日本語の「たら」と中国語の“要是”を例に— 桑 忠林(名古屋大学大学院) sangzhonglin323@gmail.com

要旨：

Evans (2007) は従属節が独立的に使われる現象を主節化 (insubordination) と呼んでいる。この現象は英語 (Stirling 1999, Kaltenböck 2016) や日本語 (白川 2009, Narrog 2016) を対象に考察された。しかし、中国語、特に日本語と中国語を対照的に考察する研究は、管見の限り、まだない。本発表は中国語の“要是”を考察対象に入れ、日本語の「たら」と対照し、条件文における主節化の日中異同を考察する。主節化された従属節を独立従属節と称する。

「たら」による独立従属節の用法を「勧誘」と「願望」、「心配」に、“要是”による独立従属節を「抵抗」と「警告」に分類することができた。

- (1) 辞めたら？ (勧誘)
- (2) 君がいてくれたらな。 (願望)
- (3) こいつに部屋で長居でもされたら…… (白川 2009) (心配)
- (4) 庞四奶奶 老太太，您跟我去，吃好的喝好的，兜儿里老带着那么几块当当响的洋钱，
够多么好啊！

康 顺子 我要是不跟你去呢？

庞四奶奶 啊？不去？〈要翻脸〉(茶馆) (抵抗)

訳文 パン 婆ちゃん、一緒に行こうよ。贅沢な生活で、お金もあるし、いいじゃない？

康 一緒に行かなければ [、どうする]？ (実際の意味：行きたくない)

パン は？行かない？〈はたと態度を変えようとする〉

- (5) 你要是敢碰我的车！ (警告)

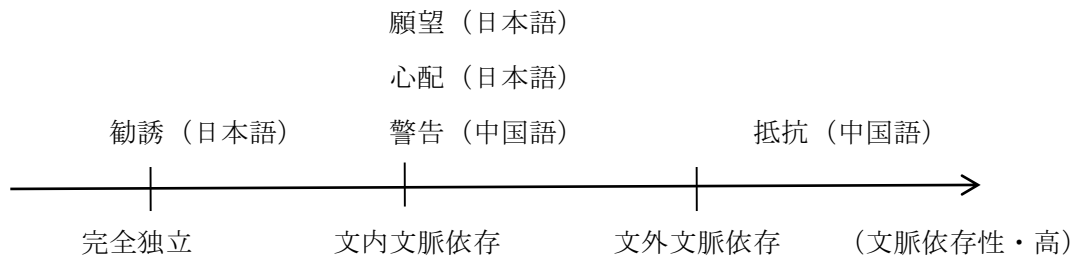
(私の車を触れば [、絶対許さない]！) / (私の車を触ってはいけない！)

両言語各用法間における主節化の程度を比較するために、文脈への依存性について 3 つのレベルを設定した。

- ① 文外文脈依存：独立従属節の成立が少なくとも文外の特定の文脈に依存。
- ② 文内文脈依存：独立従属節の成立が少なくとも特別の動詞や副詞、終助詞に依存。
- ③ 完全独立：独立従属節は文脈に依存せず、定型表現として定着している。

これに基づいて日中条件文独立従属節をその文脈依存性によって特徴づけると、以下の

ように整理できる。



この図から、中国語の独立従属節は文脈依存性が高いのに対し、日本語は相対的に低いことが見て取れる。日本語の「勧誘」の用法はすでに定型表現として定着している。中国語より、日本語の主節化が進んでいることが分かった。

このような文脈依存性の程度差については、次のように説明できる。「たら」においては「君がいてくれたらいい/嬉しいな」が「君がいてくれたらな」のように、感情を表す部分を省略できるが、“要是”にはできない。その要因は、中国語と比べると日本語の表現（感情表現以外でも）には話者の感情が多く含まれるからではないだろうか。日本語の主節化が中国語より進んでいる原因はそこにあるのだろう。日本語は「主体的把握型言語」(森山 2008)だと言われているが、それは日本語の表現に話者の感情が含まれていることを示している。

本稿は日中対照を通して、日本語の主節化が中国語より進んでいることを明らかにした。そして、それは中国語より日本語の表現が話者の感情を含んでいるからだ、という仮説を立てた。

3. “会”における意味用法の拡張

張 浩然 (京都外国語大学大学院)

要旨：

“会”は「能力」と「必然性」を表すと言われる(魯 2004)。本発表では“会”の意味用法が「能力」から「必然性」へ拡張しているということを主張する。

- (1) 我会说汉语。[能力]
- (2) 水到一百度就会开。[必然性]

“会”で表すこと自体が必然性を持つのではなく、あることの実現が必然性を持つと話し手が聞き手に注意を向けさせるものである。例えば、(2)の「水は百度になると沸く」は客観的事実のため、必然性を持つものだと考えられるが、(3)の「頑張れば成功する」は必然性を持つとは考えにくい。

- (3) 只要你坚持不懈的努力下去总有一天会成功。

(3)の話し手は「成功する」の実現が必然性を持つと聞き手に注意を向けさせており、文脈に応じて「励まし」や「慰め」などに解釈できる。

さらに、可能形式と「必然性」の関連を明らかにするため、中国語母語話者に翻訳調査を行った。その結果、日本語では可能形式で表せない「必然性」にも可能形式を用いて表現しているとの回答が見られた。これは、中国語母語話者が“会”が「能力」と「必然性」の意味用法を持っていると認識し、日本語に訳すときにも同じ可能形式で表現したがるためだと考えられる。

4. 「(の) ではないか」の中国語訳についての考察—中日対訳コーパスを利用して— 凌 飛 (専修大学大学院)

要旨：

日本語の「(の) ではないか」という文末形式は複雑な存在であり、種類も、バリエーションも多い上に、使い方も多様である。それぞれの構文的特徴と意味的特徴により、「(の) ではないか」はおおまかに、「(の) ではないかⅠ」、「(の) ではないかⅡ」と「(の) ではないかⅢ」と三分類される。「(の) ではないかⅠ」は「発見」、「提示」、「確認」、「意志表明」、「勧誘」などの用法があり、「(の) ではないかⅡ」は「推測」を表し、「(の) ではないかⅢ」は「ない」が否定辞本来の性格を発揮するものである。

このように「(の) ではないか」の用法がそれぞれ異なると、中国語に訳す場合、同じような表現を使うのだろうか。それとも、異なる表現を使うのだろうか。これを明らかにしようと思い、「中日対訳コーパス」を利用して調査を行った。その結果、「(の) ではないか」の訳し方としては、“不是……吗”、「反問文」、「無標形式の肯定文」、「嘛」、「吧」と「疑問文」などがあった。その中では、“不是……吗”が一番多かった。これで、「(の) ではないか」と“不是……吗”の間には一定の対応関係があることが分かる。本研究においては、その対応関係についても詳しく見てみようと思う。

5. 日本語と中国語におけるマイナス評価構文に関する一考察 肖 海娜 (神戸市外国語大学大学院)

要旨：

日本語と中国語において、いずれも (1) (2) に示したように、話し手が特定の対象に対して何らかの不満を表出する「マイナス評価構文」が存在する。

- | | |
|---------------------|-------|
| (1) J. 太郎のバカ! | 「同格型」 |
| C. 太郎这个混蛋! | |
| (2) J. (この) うそつき野郎! | 「修飾型」 |
| C. (这个) 虚伪的家伙! | |

これらの構文は、形式的には、名詞句の形をとり、基本的に前項 X と主要部 Y、及び両者をつなぐ接続要素によって構成される。前項 X と主要部 Y の意味関係に注目すれば、(1) の前項「太郎」は主要部「バカ」を修飾せず、両者が同格関係であるのに対し、(2) の前項「(この) うそつき」は主要部「野郎」を修飾しており、両者の間には修飾関係が成り立っている。

文単位で見ると、日中両語における当該構文は、文法形式と意味内容の双方ともに対応しているように見える。しかし、実際の発話文脈を加えれば、双方の言語において文法的に正しいマイナス評価構文が、語用論的には不適格になる場合が少なくない。

(3) (しずかちゃんのがのび太に)

J. のび太さんのエッチ！

C. #大雄这个色鬼！

(4) (しずかちゃんのがのび太にされたことを第三者に話す)

J. お母さん、#のび太さんのエッチ！ いきなり私の手を触ったのよ！

C. 妈妈，大雄这个色鬼！他上来就摸我的手。

本発表では、マイナス評価構文の類型を整理した上で、日中両語に見られる同構文の機能的異同を抽出する。最後に、日中両言語におけるマイナス評価構文の機能的相違を引き起こす要因には、両言語における呼称名詞及び指示詞の機能の違いが関係することを述べる。

6. 人称代名詞が後置される場合の態度表出機能について—中国語との対照を通して—

汪 聞君(大阪大学大学院)

要旨：

周知のとおり、日本語と中国語は言語類型が異なり、文構造に大きな隔たりがあるが、話し言葉において、述部を表出した後から追加する有標な構文（以下「後置文」）を頻繁に用いる点では共通している。例えば、

(1) a. なんて気まぐれなの〈私〉。

b. 太没节操了〈我〉。(意味は1aに同じ)

(1a, b)は無標文では以下のような語順になる。

(2) a. 〈私〉なんて気まぐれなの。

b. 〈我〉太没节操了。(意味は2aに同じ)

西村(2016)は、語気助詞化という観点から中国語の後置文を分析したものである。本発表は西村(2016)の分析を参考に、後置成分を人称代名詞に絞った上で、日中両言語の話し言葉における後置文の対照を通し、西村(2016)の言う後置成分の語気助詞化は決して中国語特有の現象ではなく、多くの場合日本語でも同様であることを指摘する。

本発表は具体的には以下の四点を主張する。

①後置は話し手の態度を表すストラテジーの一種である。

②日本語の人称代名詞は中国語と同様、文末に位置することによって、本来の意味役割が希薄になり、話し手の態度表出機能を獲得する。

③後置時の態度表出機能のバリエーションは、二人称代名詞より一人称代名詞の方が豊かである。また、二人称代名詞の後置はマイナスの態度を表す場合が多い。

④日本語には人称代名詞が多く、このバリエーションの多さが②③のような現象を起りやすくしていると考えられる。

7. サ変動詞教育における漢字の習得について——一字語素を中心に

劉 赫洋(関西大学大学院)

要旨：

現代日本語において、サ変動詞と呼ばれる語には「喫する」「学習する」のような「字音語基(一字語基・二字語基)」のほか、また「値する」「スタートする」「合図する」のような、「和語語基」「洋語語基」「混種語基」の四類に分かれていることがわかる。このうち、たとえば、「喫する」の意味項目には、「食う。飲む。吸う」と「好ましくないことを、身に受ける。こうむる」という2項目を有するが、現代日本語では「大敗を喫する」に使われる場合がほとんどである。また、「列する」は、「羅列する」「陳列する」といったような「□列+する」に比べ、非常に低使用頻度を示している。では、この「□+する」は、日本語母語話者がいかに理解し、意識しているか。また構成の上でどのような特徴をもつか、さらに効率的に習得するには何が求められるか。

本発表はこの一連の問題に着目し、一字漢語のサ変動詞を中心に、「□+する」について大学生を対象としたアンケートの調査結果を踏まえて考察し、いくつかの提言をするものである。

8. 移動事象から見た日中移動動詞の対立

張 岩(神戸外国語大学大学院)

要旨：

本稿は以下の言語現象を手掛りにし、日中両言語における移動動詞の対立表現を論じるものである。

(1C) 飞船 进 太空 了。
(宇宙船 入る 宇宙 Asp)

(1J) a 宇宙船は宇宙に出た。
b??宇宙船は宇宙に入った。

上掲の(1C)と(1J)が同じ移動事象を表すのにも関わらず、(1C)の中国語文では“进”(入る)が選ばれるのに対し、(1J)aの日本語文では「出る」が選ばれている。本稿は以上のような対立を視野に入れ、移動事象のフレームのもとで、「出る」、「出」、「入る」、「进」の意味構造を明らかにし、こういうような対立の原因を解明したい。

本稿はまず日本語との対照から中国語の“出+NP”は実に日本語の『NP を出す』と対応すると指摘し、さらに移動事象の面でそれぞれの言語に描き出された移動図式の区別を明示し、日中移動動詞の対立の原因を論じたい。

次に、閉鎖経路を意味している「入る」はなぜ(1J)bに表現できないかという問題を池上(2006)を参照し、日中両言語の事象把握と視点選択から論じる。

9. 実質視点と話題視点

高橋 弥守彦

要旨：

日本語の[2割引]を中国語では“打八折”と言い、週休2日制を“五天工作制”と言う。日本語は割引される金額、休養する日数で表現し、中国語は実際に支払う金額、実際に働く時間で表現する。上記の2例は、同じ現実なのに逆の表現になっている。以下の2例も下線部の原文と訳文では表現がかなり異なる。本発表では、これらの表現上の違いがどこから来るのかを分析する。

(1) “朋友们聚头的日子还多着哩，往后尽管到我我这儿来开胃口，八折优惠。这次嘛，我看就差不多好歇一歇了。”(『人民』95-3-99)

「みなさん方、またちょくちょくお集まりになることでしょうか、これからはどんどんウチにいらして、たっぷり召し上がってください。二割引にいたしますよ。今回はそろそろお開きということではいかがですか」(同上、95-3-98~99)

(2) 国有国徽，校有校徽，厂有厂徽，奇怪吗？我家竟有家徽，我们家的家徽是一条鱼，一条刻在门板上的鱼。(『人民』95-11-99)

国には国旗があり、学校には校章があり、工場にだってちゃんと会社のマークがついている。おかしいかい？わが家にだって家紋があるんだよ。わが家の家紋は魚、表戸に刻まれた一匹の魚だ。(同上、95-11-98)

10. 现代蒙古语*中的汉语混合使用与对蒙古族学生的第二语言汉语教学

来 小子(関西大学大学院)

要旨：

随着社会的发展与跟汉民族接触往来的加深，现代蒙古语口语中的汉语混合使用情况越来越严重，使汉语词汇对蒙古语的影响越来越大，对蒙古族学生第二语言汉语教学中的影响也越来越深。反之，对蒙古族学生的第二语言汉语教学也很大程度上促进了蒙汉语混合使用的情况。本文主要阐述它们通过相互摩擦、相互影响、相互融合的过程，对彼此带来的促进作用。

本文分成四个部分。

第一部分为引言。从研究对象、研究现状、研究意义等三个方面来谈。

第二部分简单介绍了现代蒙古语中的汉语混合使用情况。首先，从政治、经济、文化词汇的角度举了一些例子。然后，又从HSK词汇入手，简单分析归纳了HSK词汇在现代蒙古语里被使用(混合使用)的情况。希望此项分析能够作为一种参照对象。

第三部分介绍了现代蒙古语中的汉语混合使用与对蒙古族学生第二语言汉语教学的相互影响。首先谈了蒙古语对第二语言汉语教学中的几点负迁移作用和正迁移作用。在此基础上简单说明了一下现代蒙古语中的汉语混合使用对蒙古族学生第二语言汉语教学中的正迁移作用。其次，介绍了蒙古族学生的第二语言汉语教学对汉语混合使用的影响，也就是它的促进作用。

第四部分为结语。总结整篇文章的大概内容。

11. 明治時期中国語教材の動詞の捉え方-『動字分類大全』と『支那語動詞形容詞用法』との比較-

楊 昕（関西大学大学院）

要旨：

明治時代に入り、日本における中国語教育は明治維新の影響の下、教師の採択、教材の編纂、教授方法など一連のことが変化した。とりわけ明治9年から、日本国内における中国語学習は北京官話に移り変わった。その時から、中国からの教師も数多く受け入れるようになった。そして、当時日本に渡航した中国人の教師は日本の学校で教鞭を執りながら、多種類の中国語教科書や学習書も著した。その中で、長い間で使用し続けてきた教科書もあり、刊行されてすぐなくなった教科書もある。それらの教科書では、当時の社会、経済、文化などの面が反映された一方、当時の中国近代化の過程における言語変化を研究する資料として挙げられるテキストも数多くある。そこで、本発表では、明治後期に来日した中国人教師と日本人教師を対象とし、彼らが当時日本の中国語教育界に活躍している際、作り上げた教科書『動字分類大全』と『支那語動詞形容詞用法』を中心とし、当時中国語の動詞の教授方法と分類方法について考察したうえで、中国語の動詞に対する捉え方および動詞の教授方法、いわゆる文型をいかに認識してきたのかを検討することを目的としたい。